

審査の結果の要旨

氏名 高橋 香織

近年、自閉症スペクトラム障害（以下 ASD）児への支援制度の整備が進み、家族支援プログラムも開発されつつある。しかし、支援を受けることについての家族の認識と状況については明らかになっていない。そこで本論文は、支援に関する家族の認識と支援につながるまでの家族の心理的プロセスを明らかにし、家族支援を適切に進めるための臨床心理学的指針を得ることを目的とした。論文は、先行研究を概観し、家族支援の課題を明らかにする第1部、家族支援に関する現状把握をする第2部、支援を受けるまでの家族の心理的プロセスを検討する第3部、結果を総合的に考察する第4部から構成される。

第1部1章ではASD児の支援では家族と協働して支援を行うエンパワーメントの視点が重要であるにもかかわらず、支援をうける家族の認識は明らかになっていないことを示した。そして、2章で家族支援の現状を家族と支援者の視点から検討し、家族が相談機関を利用するまでの心理的プロセスを明らかにするという本研究の目的と構成を示した。

第2部3章では家族支援尺度（家族版）を作成し、ASD児の母親196名を対象として調査した結果、家族支援の要素として「子どもに関する情報提供」「ストレスへの注目」「支援ニーズの把握とエンパワーメント」「スタッフによる連携」が重要であり、家族支援を受けることは支援満足度を媒介し、生活満足度につながっていることが示唆された。4章では家族支援尺度（支援者版）を作成し、支援者165名を対象として調査した結果、情報提供、ストレスおよびエンパワーメントモデルに基づく支援は共通して行われていたが、多機関多職種連携は、職種や機関により実施度に差異がみられることが明らかになった。そして、5章でエンパワーメント視点に基づく支援を行う支援者の特徴を検討したところ、職務満足感および支援に関する対応効力感が高いことが明らかとなった。さらに先行研究から、エンパワーメント視点に基づく家族支援においてストレスへの焦点化の重要性が示されていたので、6章では、母親のストレスの認識を検討した。その結果、親が子どものストレスを活かした対応をし、生活にゆとりをもち、社会的な活動が制限されていないと感じていることが、生活満足度に影響することが示唆された。

第3部7章では、幼児期に診断されたASD児の母親10名を対象とした面接調査の質的分析により、不安や困惑への対処を求めるニーズが高まった際に来談すること、親の会や療育機関での支援が不安の軽減に役立つことが示された。8章では、成人期に診断をされたASD者の母親又は父親10名を対象とした面接調査の質的分析により、幼児期は子どもの状態に違和感を持ちつつもそれを打ち消すことが出来ていたが、学齢期になり徐々に特性を認めざるを得なくなるプロセスと、支援を受けるまでの家族の支えは子どものストレスを活かした対応と家族内のサポートであることを明らかにした。

第4部9章では研究の意義を明らかにし、10章で今後の課題を示した。本論文は、エンパワーメントモデルに基づく家族支援が、家族の生活満足度と関連して生活の質を高め育児負担感を減じるとともに、支援者の職務満足感に影響し対応効力感を高めることを実証し、さらに家族が支援につながるプロセスにおけるストレス視点の役割を示した点で特に意義が認められる。よって本論文は、博士（教育学）の学位を授与するに相応しいものと判断された。